

子どもの良さを共有したい

「園長先生みてみて」と差し出す虫かごの中には、てんとう虫が2匹。とっても大事そうに見せてくれました。これどうしたのと聞くと、「〇〇先生が捕まえてくれたの」と教えてくれました。虫かごの中に入っている、てんとう虫を独り占めしないで友達や先生に見せてくれる気持ちに感動しました。

先日、ピオラの花にツマグロヒョウモンがいることに気づきました。テラスの階段に鉢を移し様子を見ることにしました。2~3日すると、鉢の位置が変わっていました。近くにいたいよう組の友達に聞いてみると、「ツマグロヒョウモンがさなぎになっているので、落ちないようにしました」との返事でした。テラスの階段にくっついてさなぎになったツマグロヒョウモンを守ろうと工夫してくれたようです。すべての生き物を大切にしたいと思う、優しい心と行動に感心しました。きっときれいなチョウになって飛んでいくこ

とだろうと楽しみにしています。

時には、パパ・ママから離れたくないお友達もいます。その日や前日からのつながり等で、親から離れられない子どもの気持ちはよくわかります。ひまわりこども園では、そのような園児に寄り添い、落ち着くまで一緒にいます。子ども達は、そうすることで勇気と元気をもらい、お友達の中に入っていきます。給食時間になると元気になる、お腹いっぱいご飯を食べています。また、時には、お母さんにバイバイして泣きそうになっているお友達に、「〇〇くん一緒に遊びに行くよ」と声をかけて外に飛び出していく姿があります。お友達に声をかけてもらい、勇気と元気をもらって遊びに入っていきます。子ども達同士での絆を強く感じます。声をかける子も、声をかけられる子も優しい子たちだなと感じています。信頼と愛着関係が結ばれていることで、園が安全基地となって、子どもたちが飛び立つ力

〈大切にしたい考え方〉

- 子どもの主体性を高める
幼児教育
- 興味関心を大きくする環
境構成
- 生活の場としての園生活

ひまわり 11

元気な子どもたちとともに

〈教育目標〉

元気で思いやりのある
ひまわりっ子

〈職員目標〉

- チームワーク
- 主体性を育む保
育
- 資質向上

になっていると考えています。本園では一人ひとりの子どもたちに寄り添い、その子が安心するよう、自信が持てるようになるまで、見守っていくように考えて保育を行うよう考えています。

先週は雨が降ったために園庭で遊べない日がありました。少しの晴れ間を見て外で元気よく遊んでいました。くぼみに水を運び土と一緒に混ぜています。何を作っているのと聞くと「チョコレートだよ」と声が帰ってきました。まさにチョコレート色になっていて、食べると美味しいなと思えるぐらいのできでした。子どもたちの創造力と工夫に感心させられます。しばらく見ていると、本当に美味しそうだね。と声をかけると、「うん そうでしょう」と自信満々に応える顔は、晴れやかでした。自分を認めてもらうということは、子どもたちの心の栄養素となり、次への挑戦へと進んで行く力となっていくことだと

考えています。

私たちはこのように素晴らしい子ども達と、毎日生活している幸せを感じながら子どもたちの成長の一瞬一瞬に関わっていきたいと考えています。令和の世の中になってきましたが、新型コロナウイルス等の感染症、物価高騰など経済状況の不安、合わせて少子高齢化の影響や世界情勢の不安定化など、行先不透明の時代に入っています。このような時代を生きていくためには、自分で考え、自分で判断し、自分で行動する力が必要であると考えています。そのような力をつけるために、幼児期にどれだけ根っこ（非認知的能力）をつけて、生きていく力をつけていくことが大切です。私たちはそのために、愛着関係をもとに、子どもたちのやりたいを大切に、様々な経験をできる機会と場を準備していきたいと考えています。